

巻頭言 教授就任のご挨拶

整形外科学教室 教授
大槻 周平



2024(令和6)年4月より、第7代大阪医科薬科大学整形外科学教室の教授に就任いたしました。本教室は開講72年を迎え、これまでに横山哲雄先生、有原康次先生、小野村敏信先生、阿部宗昭先生、木下光雄先生、根尾昌志先生の先輩教授が築き上げてこられた歴史を引き継いでいます。また、同門会員数は300人を超え、それぞれが地域医療に貢献しています。今後も整形外科医療の発展に寄与する人材を育成し続けていきたいと考えています。教授としての責任の重さに身が引き締まる思いですが、皆様のご支援・ご指導のおかげで順調にスタートを切ることができました。

私の医師としての歩みは1993(平成5)年、大阪医科大学に入学したことから始まります。入学と同時にバレーボール部に所属し、ほとんど経験がなかったバレーボールに没頭しました。なかなか上達しない自分に焦りを感じながらも、先輩方や仲間たちとの良い経験を重ねていきました。大学5年生の春、バレーボールの大会で足関節捻挫を負ったことが、整形外科との初めての出会いとなりました。その後、再受傷し、最も重要な夏をギプスと共に過ごすことになった経験から、私はスポーツ医療にも貢献できる整形外科医を目指すようになりました。

1998(平成10)年、本教室に入局し、膝関節軟骨変性のメカニズムに興味を持ちながら、アメリカ・サンディエゴのスクリプス研究所に留学しました。留学中は、客観的思考の重要性や研究成果を伝える難しさを学びました。留学を許可していただいた木下光雄先生に感謝の気持ちを忘れず、今後も本教室に恩返しをしていきたいと考えています。

現在、整形外科の分野は6つの専門領域に分かれており、年間約1,100件の手術が大学で行われています。私は特にスポーツ膝関節の治療を専門としており、今後も日本をリードする治療技術を目指して学会や診療活動に取り組んでいきます。また、教室内のスタッフにはそれぞれの専門分野を確立し、日本一になることを目標に研鑽してもらいたいと考えています。

今年度に引き続き、来年度も9名の後期研修医が本教室に入局する予定です。整形外科外傷治療の経験として、毎朝行われる救急医療部とのカンファレンスに整形外科の指導医と若手医師が参加し、3次救急の手術を行っています。2次救急については、三島南病院との連携を強化し、大学病院に搬送される骨折外傷への協同治療を行なっています。これらは、大学院の特命助教と後期研修医が中心となり治療が適切に行われ、それをスタッフがサポートするという体制が着実に整っています。この取り組みが、当初の計画以上に成果を上げていることを嬉しく思います。今後は、他科や他院との連携を一層深め、安全で質の高い外傷医療を一層提供していきます。

今後も、教室員とのコミュニケーションを大切にし、絆の強い整形外科学教室を作り上げていきたいと考えています。また、若手医師の教育にも力を入れ、国際的にも活躍できるAcademic Surgeonを育成することを目標にします。本学は、非常に自由でおおらかな学風が魅力であり、私はこの環境の中で育てていただきました。この素晴らしい伝統を引き継ぎ、根尾昌志先生が作り上げた「オリジナリティーの追求と外の世界を知り学ぶ」という精神を大切にしながら、次の時代を築いていきたいと思います。

整形外科学教室の教授として、これからも大阪医科薬科大学の発展に尽力し、医療の進歩に貢献していく所存です。どうぞ、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



整形外科学教室 集合写真